

# 愛知県立芸術大学 施設整備基本構想 2007

愛知県立芸術大学施設整備専門委員会  
委員長 長谷高史 副委員長 福本泰之  
委員 美術学部 神田每実 水津功 白河宗利  
音楽学部 戸山俊樹 掛谷勇三  
教養 三宮敦生  
事務局 鈴木博幸 鹿島靖  
法人本部 神谷和秀 道官秀信 伊藤晶  
計画支援 (株)日建設計

愛知県立芸術大学は昨年創立 40 年を迎え、確かな足跡と多大な成果を上げてまいりました。

しかし、その成果とは裏腹に施設の老朽化は進み、これ以上対応ができない状況となりました。

耐震強度の問題だけでなく、高度化する大学教育、研究に空間、設備が機能不全を起こし、また、法人化後さらなる様々な貢献が求められています。又、少子化による大学全入時代を迎え、魅力ある大学が求められています。

このようなことから明日の芸大を「魅力ある大学力を持つオンリーワン」を目指して、本年度施設整備基本構想を計画検討しています。

教員展の機会をお借りして、現時点での計画案を提示申し上げます。

尚、今年度中に構想案をまとめ次年度に基本設計に移行する予定です。

(2007.10.16. 現在案)

■ゾーニング計画

【①国際化】  
現学生寮の敷地を研究所および職員住宅用地として確保し、新領域施設の建設に対応。

【①国際化】  
コンサートホール・法隆寺金堂壁画模写展示館を芸術センターと位置づける。キャンパス正面に配置し、大学の顔づくり。各施設は国際レベルの教育に対応できるものを目指す。

【⑤環境】  
一ノ池や東の丘（森）への景観を意識した施設配置。光・風・雨・緑などの自然の恵みをいかすキャンパスづくり。

【③機能】  
音楽学部は、楽器の運搬を考慮して、演奏室に隣接して各施設を集約。

【③機能】  
音楽学部には、ガラス張りのレッスン室を設け、自らを高めお互いに刺激しあえる場所づくり。

【④生活】  
「音楽の庭」は学生・先生との対話がはずむ憩いの場。

【②連携】  
「集いの庭」を中心にキャンパス奥部まで人を招き入れる構成。

【①国際化】  
美術館・芸術情報センターを芸術センターと位置づける。キャンパス正面附近に配置し、大学の顔づくり。

【④生活】  
「集いの庭」を軸に、各学部の共用ゾーンや学生会館などからそれぞれの視線が交わり、お互いの活動が見える計画。

【②連携】  
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【①国際化】  
現音楽学部施設の敷地を新領域施設の建設用地として確保。

【④生活】  
施設群を森・緑が取り囲み、敷地全体にわたって広がる景観を継承。

【②連携】  
散策の小径は、地域の人をも導くキャンパス内の主動線として整備し、回遊を促す。

【④生活】  
「美術の庭」は学生・先生との対話がはずむ憩いの場。

【②連携】  
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【③機能】  
美術学部には、オープンアトリエ（各専攻が持つギャラリーやプレゼンの場）を設け、自らを高めお互いを刺激しあえる場所づくり。

N  
S=1/2,000

【③機能】  
美術学部は、各専攻の交流と創作の場である半屋外の「工房回廊」と多目的スタジオとしての機能を持つ「大工房」を持ち、大工房を各専攻が取り囲む機能的な配置。

【③機能】  
工房群やスタジオ群は各専攻からアクセスしやすい位置に配置。

【③機能】  
構内サービス動線をキャンパス周縁部に配置し、各施設への資機材の搬入を考慮した動線計画。

コンセプト

【背景： 現施設の老朽化／芸術教育の領域の拡がり／教育現場での対話重視／知のオープン化による創作環境の進展／地域社会との連携強化】

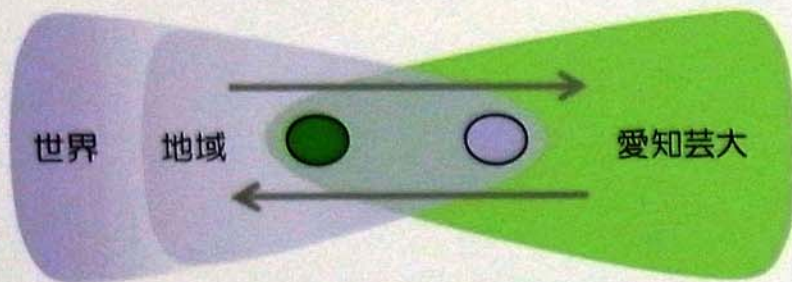
中部地域の高度芸術教育の拠点となり、国際レベルの次世代へ継承できる  
「オンリーワンの大学力」をもつ

キャンパス全体を「愛・知・芸術の森」とする

愛・知： 地域～世界と直結する

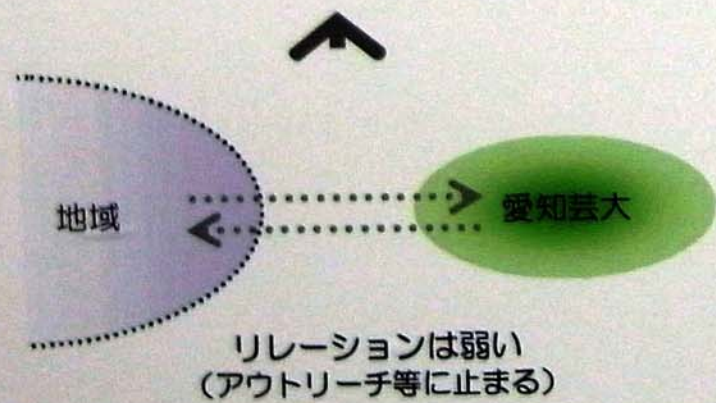
「本物の相互浸透」「リッチメディア基盤」が芸大らしさを発信する

- 【本物の相互浸透】…街中アートスポットを地域～世界へ(地域連携強く) 学内の眼前で世界レベルを体感(人・技)
- 【リッチメディア基盤】…遠隔の協同創作・演奏を支える情報環境基盤(地域～世界の芸術家とのコラボレーション)



街中アトリエ  
街中スタジオ  
(ミニ芸大)

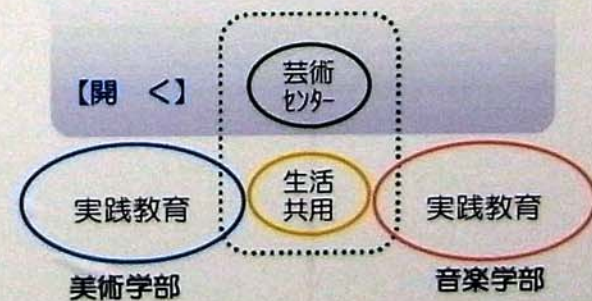
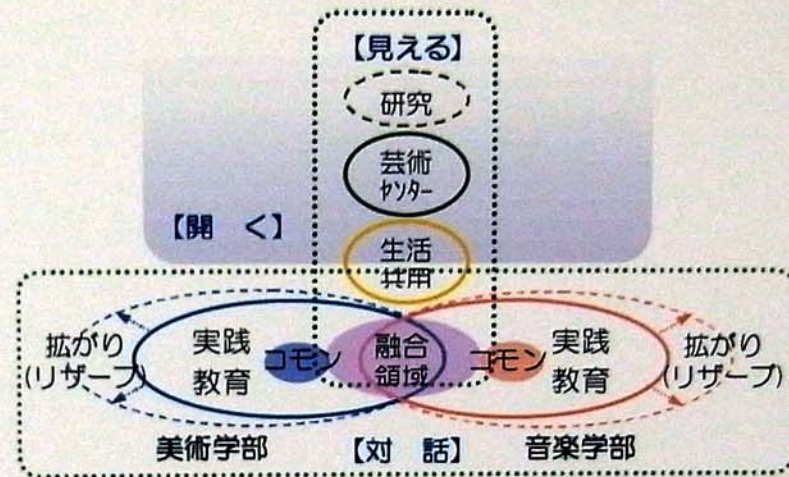
- ・世界企業との協同ラボ(アート&テクノロジー)
- ・世界レベルの芸術家招来(アーティスト・イン・レジデンス)



芸術： 本質を追求する

「開く」「見える」が、芸大のダイナミズムを高める

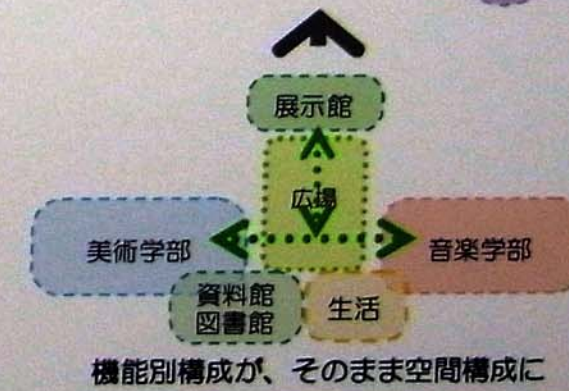
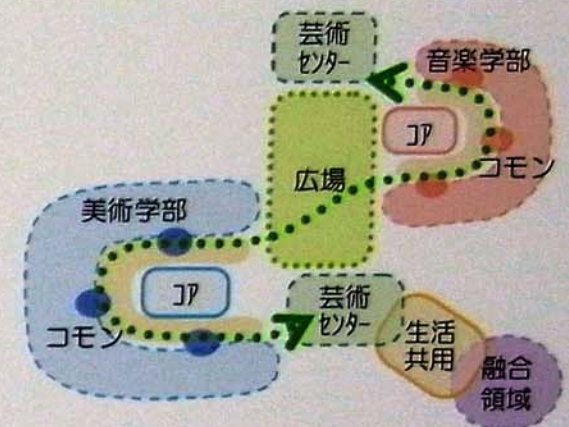
- 【開く】…発表・展示(質の高い実践教育)／研究(より深く)
- 【見える】…ショーケース化／交流コモン(見る・見られる関係)
- 【対話】…創作・集中／環境性能／コミュニケーション重視



森： 人間性・感性を育む

「緩やかな混在」「セパブルな際」が、創造力を触発する

- 【緩やかな混在】…学部のコア & 周りに施設群のまとまり 学科毎交流センター(個別レベル)／日常的刺激
- 【セパブルな際】…食堂・講義室を分散／選べる／学部を超え交流変化のあるシーケンス(広場・カフェ・憩い)



< 国際化 >

< 連携 >

< 機能 >

< 生活 >

< 環境 >

< 継承 ※ > 緑豊かな環境 / 施設配置の間と群 / 視線と見通し

\* DOCOMOMO を踏まえた継承

-DOCOMOMO に指定。

-緑豊かな環境、施設配置の間と群の構成、視線の見通しといったコンセプトを継承

DOCOMOMOとは、モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織。建築史研究者、建築家、構造エンジニア、構造研究者らから成り、モダン・ムーブメントの重要性を一般に認識させることを目的に活動。

# ゾーニング方針

## <国際化>

- 中部地域の芸術拠点
- 世界とリアルタイムに結ばれる
- ・ 芸大の顔づくり、ロケーションの発信拠点
- ・ 地域～世界とコラボできる情報環境
- ・ 芸大らしい芸術領域(融合)を展開、その拡張余地を見越した将来計画を

## <連携>

- 地域貢献・地域連携
- 地域産業、経済に貢献する仕組み
- ・ 訪れた人が、キャンパス奥深くまで回遊
- ・ コンサートホール、美術館へのアクセス
- ・ アトリエ等に止まらず、協同研究を展開するための基盤

## <機能>

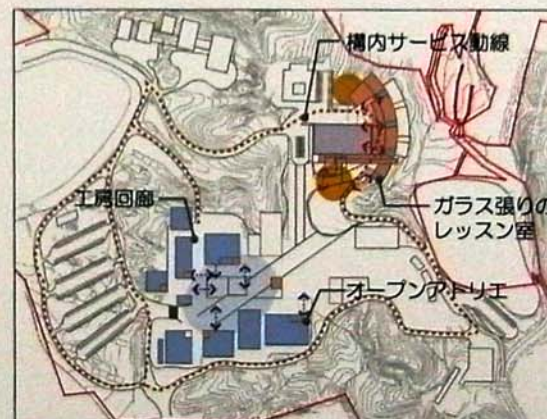
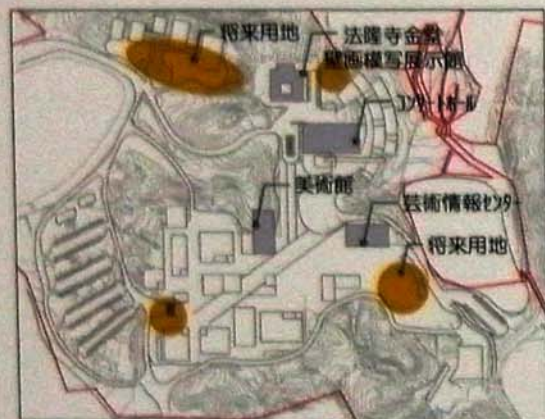
- 施設における機能性を重視
- 環境性能に重点
- ・ 自然採光・音響等、環境性能を徹底
- ・ 快適な研究生活ができる設備(空調)
- ・ 自らを高め、互いに刺激し合う場
- ・ 施設へのアクセス(資機材・楽器搬出入)

## <生活>

- 生活空間としてのキャンパス
- 豊かなキャンパスライフの保証
- ・ 美術と音楽の融合を育むスペース
- ・ 静穏と活気のメリハリ、快適な環境
- ・ 貴重な森、緑、広がる景観の継承
- ・ 学生、先生の対話が弾む憩いの場

## <環境>

- 景観に配慮、循環型社会への対応
- サステナビリティと持続性
- ・ ゼロエミッションの実現
- ・ 環境負荷を抑制、ライフサイクルコスト最小化
- ・ 長寿命のキャンパス・建築(ゆとり)
- ・ 自然環境を活かす(光・風・雨・緑)



—芸術センターによるキャンパスの顔づくり。  
 —現学生寮の敷地を研究用地として確保、また各学部ゾーンにおいても将来用地を確保し、新領域に対応。  
 —国際レベルの教育に対応できる施設づくり。

—コンサートホール・美術館などキャンパスの顔として位置づけ、キャンパス奥部まで人を招き入れ、地域に開放した設えとする。  
 —各施設に対応した駐車場を確保し、訪れる人の利便性を確保。

—工房回廊(交流と創作の場)を持つ美術学部の各専攻が大工房を取り囲む機能的な配置。また音楽学部棟はコンサートホールと隣接して集約し、機能性を重視。  
 —オープンアトリエやガラス張りのレッスン室等、自らを高め互いに刺激しあう創作の場を計画。  
 —構内サービス動線をキャンパス周縁部に設置し、各施設への資機材の搬入を考慮。

—「集いの庭」を軸に、音楽学部と美術学部の共用ゾーンや学生会館などからそれぞれ視線が交わりお互いの活動が見える構成。  
 —各学部には「美術の庭」「音楽の庭」を設け、学生・先生との対話がはずむ憩いの場となる。  
 —施設群を森・緑が取り囲み敷地全体にわたって広がる景観を継承。

—一ノ池や東の丘(森)への景観を意識した施設配置。  
 —光・風・雨・緑など自然の恵みを生かすキャンパスづくり。  
 —環境負荷を抑制し、ランニングコストの低減を図る。  
 —将来のリニューアルを考慮した長寿命のキャンパスを目指す。